



青森河川国道ニュース

お問合せ先：国土交通省 青森河川国道事務所 〒030-0822 青森市中央三丁目20-38
地域づくり相談室 TEL017-734-4529 FAX017-722-2577



ご意見は
こちらまで



青森河川国道事務所では9月6・7日に八戸国道出張所で2名、6～9日まで計画課で2名の計4名を受け入れてインターンシップを実施しました。

今回の事務所ニュースは計画課で実施した2名に思いのままに作成していただいたものを掲載します。



津軽平野を見守っている津軽ダム

令和4年8月豪雨によって記録的な大雨となった津軽地方では、国交省の職員による※TEC-FORCEが大活躍しました。青森県内では8月3日に史上初となる線上降水帯が確認されました。さらにその約1週間後の9日から的大雨により、弘前市岳では72時間雨量が観測史上最大の402mmとなり、この値は8月の平年値の約2.3倍にあたります。弘前市を流れる岩木川や秋田県の米代川では氾濫危険水位を超過するとされるレベル4が発令され、青森県や秋田県の一部市町村には避難指示も発令され、そのうち青森県弘前市では警戒レベル5とされる緊急安全確保が発令されました。

※TEC-FORCE

国土交通省の職員が被災地に赴き、被災状況調査、災害対応についての技術的助言、災害対策用機械による応急復旧等について支援する組織のこと。

Q. では、津軽ダムがなければ津軽平野はどうなるのでしょうか？



▲津軽ダムがない状態



▲津軽ダムがある状態

私たちは実際にダムのモデルとジョーロを使って実験を行いました(ジョーロは降水の代わりにします)。ダムがない場合は、少量の雨が降ってしまっただけでも雨水を堰き止めておくものがないため、川の水位はみるみるうちに上昇していき、挙句の果てに川が氾濫して住宅街や民家に水が押し寄せ、浸透するスピードが早くなってしまいます。しかし、ダムがある場合は、ダムは水を堰き止める機能をもっているため、少量の雨であれば川が氾濫することはなく、水が川から外に溢れ出す心配はありません。豪雨に見舞われてしまうと、ダムは機能を果たさなくなってしまうため、これからも大雨には厳重警戒しなければなりません。



▲大雨の影響で濁ってしまったダム



▲津軽ダムを見上げてみたようす

※9月7日現在、8月の豪雨による影響でダムは濁っていました。

インターンシップ3日目



【天間林道路の見学】



【青ぶな山トンネルの説明】

インターンシップ3日目は、天間林道路と奥入瀬バイパスの見学をしました。現場を管理しているGAEART((株)ガイアート)や熊谷組の方々と話すことで地域住民の快適な暮らしを目指して頑張っていることがわかりました。

特に青撫山トンネルは、避難坑の建設に約5年も費やしていることに驚きました。



【青ぶな山トンネル避難坑】

インターンシップ最終日



【道路巡回の概要説明】

インターンシップ最終日は、道路巡回を行いました。道路巡回の際は藤本建設に委託し、連携して管理していることがわかりました。道路の小さな穴埋めやゴミ拾いなど大きなトラブルがなく終わることができました。

～今回のインターンを通して～

今回のインターンで青森県内の多くの現場を見学することができました。ダムの地域貢献やトンネルの建設方法など授業では軽くしか触れないことを多く学ぶことができたと思います。